第3回仙台市ダイバーシティ推進会議　議事録

Ⅰ．会議概要
日 時　令和6年10月9日（水）18:00～20:00
会 場　仙台市青葉区中央 1-3-1 AER30階　TKP ガーデンシティ仙台 ホール 30A
出席者（委員）
大隅委員長、石井副委員長、宇田川委員（オンライン）、小林委員、小宮委員、
田村委員、ビッティ委員、福田委員、本図委員、マリ委員
（仙台市）
梅内まちづくり政策局長、筒井まちづくり政策局ダイバーシティ推進担当局長、
湯村まちづくり政策局次長、藤原政策企画部長、大沼ダイバーシティ推進課長

Ⅱ．議事
1．開会
〇山口企画推進係長
皆様、本日はご多用のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。
定刻より少し早いですけれども、委員の皆様がお揃いになりましたので、ただいまから第３回仙台市ダイバーシティ推進会議を開会いたします。
本日の司会を担当いたします、仙台市まちづくり政策局ダイバーシティ推進課の山口でございます。よろしくお願いいたします。
まず初めに、会議の運営についてお知らせとお願いがございます。
本会議は公開で行うこととしておりますことから、会議録作成のため、発言される際はマイクをご使用ください。また、本日オンライン参加の委員の方がいらっしゃいますので、マイクでのご発言をよろしくご了承ください。
傍聴席の皆様にお願いでございます。会議中の発言や会話、無断での録音録画等はご遠慮いただき、円滑な会議運営にご協力いただきますようお願いいたします。
続きまして、お手元の資料についてご確認をお願いいたします。
次第と、資料1から4、その他参考資料といたしまして、前回の会議の発言要旨と、お知らせといたしましてダイバーシティ関連イベントのチラシをお配りしております。
不足している資料がございましたらお知らせください。よろしいでしょうか。
続きまして、開会に当たりまして、大隅委員長よりご挨拶を頂戴したいと存じます。大隅委員長よろしくお願いいたします。

〇大隅委員長
東北大学の大隅でございます。
本日は第3回目となる仙台市ダイバーシティ推進会議ということで、皆様にオンラインも含めてお集まりいただきましたこと、本当にありがとうございます。
またそのために少し遅い時間の設定となってしまいましたけれども、皆さんにご参加いただけることが一番と、私としては思っている次第です。
大分仙台も寒くというか涼しくなってきまして、本当にあっという間に季節が動いているなという感じなのですが、時事ネタとしましては、私、大学の広報も担当しており、月曜日、火曜日とノーベル賞の受賞者発表が続き、今日も化学賞の発表日で、どんな方になるかということなのですけれども、今のところ男性のみという形になっています。受賞者にも女性が入って欲しいなというふうなことも、心待ちにしているところでございます。
今回の仙台市ダイバーシティ推進会議としては、事務局に推進指針のたたき台を用意していただきました。
この推進指針について、皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇山口企画推進係長
大隅委員長ありがとうございました。
本日及川委員と小野委員が所用のため欠席となりますことをご了承お願いいたします。
それでは大隅委員長に会議の進行をお願いしたいと思います。大隅委員長よろしくお願いいたします。

〇大隅委員長
それではしばらくの間、私の方で進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
次第3の意見交換ですけれど、その前に、すでに前回の議事録等につきましてはメール等でご連絡しているかと思いますので、もし何かお気づきの点がありましたら、そちらにつきましては会の終わりまでにご連絡いただけたらと思っております。
時間も限られておりますので、次第3の意見交換の方に早く入りたいということがございますので、事務局の方から、資料3と、資料4につきましてご説明いただきたいと思います。
その後、全部まとめてというとなかなかフォーカスがばらけてしまうかもしれないことを懸念いたしまして、ご意見をいただくときに、できれば前半、後半の部分に分けていただきたいと思っています。
前半というのは、7ページまで、8ページ以降を後半と扱わせていただきますので、それぞれの皆様からのご意見を頂戴いたしますときには、まず初めに前半部分でのご意見をいただき、その後に後半部分の方をいただきたいと考えている次第です。流れでそうではなくなってしまうこともあると思いますし、両方カバーするというような部分もあろうかと思いますので、適宜ということでご配慮いただけたらと思っております。
それでは事務局の方からご説明をよろしくお願いいたします。

〇大沼課長
それでは、中間案素案について説明いたします。資料3の1ページ目をご覧ください。
冒頭文として、ダイバーシティまちづくりの意義や、前回、皆様から多くご意見をいただいた、歴史や文化、都市個性を土台とした「仙台らしいダイバーシティまちづくり」の重要性を記載しています。「世界から選ばれる都市」は、かなり大きな概念ですが、仙台市基本計画のまちづくりの理念として掲げていることから、ダイバーシティ推進もそこを見据えていくという決意を込めてこの言葉を使いました。
なお、前回会議において、「宣言」のような発信力のあるものを策定してはどうかとのご提案をいただきましたが、本市では過去に健康都市宣言などを議決により制定している経緯があり、また、他都市では市民参加での策定事例などもありますので、今回のスケジュールでは宣言という形まで持っていくのは難しいと考えております。その代わりの意味も込めまして、この冒頭文をまとめたところです。
2ページ「目次」をご覧ください。大まかな構成として、1と2が総論、3が具体的な指針の内容、4が推進体制というふうになっています。
続いて、3ページ、4ページを合わせてご覧ください。前回の会議でも年表の形でご覧いただきましたが、仙台のまちづくりをダイバーシティの観点からまとめたものです。これまでの積み重ねの上に今回の指針があるということで、前回会議でもこうしたまとめは重要との指摘をいただきましたので、最初に配置をしています。年表は思い切って400年前からスタートさせてみました。
また、前回会議で、多くの委員の皆様より「世界に通じる」という表現に違和感があるとご指摘をいただいたことから、4ページ右下では「世界を見据えた」という表現を使用しています。よりふさわしい表現がありましたら、ご意見をいただければと存じます。
次に、5ページ「2. 仙台市が目指すダイバーシティまちづくり」をご覧ください。(1)と(2)は、主に第1回会合で田村委員より話題提供いただいた内容を参考に取りまとめております。

「(1)ダイバーシティの変遷」では、外から見えやすい「表層のちがい」だけでなく、近年は価値観や経験など「深層のちがい」への配慮も含まれるようになったこと、OECD や G7都市大臣会合では、ダイバーシティを都市政策と捉え、都市の発展につなげようとする試みが進められていることについて解説しています。
「(2)4つの類型」では、組織や社会がどのようにちがいを認識し、受け入れていくかを4つの類型で示しています。図2のとおり、「同化」から「すみ分け」、そして「共生」へと広がり、さらに田村委員より前回ご紹介があった、組織や社会に愛着や居場所感を持てる「所属(ビロンギング)」の視点も注目されていることに言及しました。
続いて6ページ、(3)ダイバーシティの効果です。前回会議で、ダイバーシティの推進のメリットを明らかにすべきとのご発言がありましたことから、ここでは例示として、「地域への愛着や参加意識が高まる」、「内外から人材や投資を呼び込む力となる」、「新たなアイデアやイノベーションを生み出す源泉になる」などを挙げております。
続いて(4)仙台市における背景です。本市がダイバーシティを推進するにあたっては、仙台の強みを土台にしていく必要があると考えています。この項目では、本市の特性や強みを、多様な人材の集積、市民協働の歴史、グローバルな視座の3点で整理しました。
これらを踏まえ、7ページ、(5)仙台らしいダイバーシティまちづくりを整理しています。ダイバーシティをめぐる背景や状況は各国で異なるため、国際的に共通する定義はありませんが、第1回会議で田村委員がお話しされたのと同様に、この指針ではダイバーシティまちづくりを、「①多様性を受容する」、「②互いに対等な関係を築こうとしている」、「③全体として調和がとれている」という3つの状態を目指す取り組み、と捉えたいと考えております。
その上で、ダイバーシティの推進により目指す都市の姿は、その都市の持つ歴史的、文化的な背景や時代によって変化するものと考え、箱囲みにあるとおり、本市の歴史文化や都市個性への愛着を土台とし、これを尊重しながら仙台にふさわしい多様で調和のとれたまちを目指し、実践を重ねる、「仙台らしいダイバーシティまちづくり」を進めたいと考えております。
続いて、(6)本指針の位置づけをご覧ください。前回会議では、令和13年度以降は指針の考え方がなくなるように見えるとのご指摘や、個別計画への指針の反映前であっても、個別の事業の中でできることは実施すべきなどのご意見をいただきました。
ご意見を踏まえ、指針策定直後より、喫緊の課題である外国人住民の増加に向けた環境整備など、具体的な事業に取り組むことを記載したほか、令和13年度以降もダイバーシティまちづくりが継続して見えるよう年表形式に改めました。
なお、前回会議の資料では、次期基本計画に本指針の考えが反映されるといった表記をしていましたが、基本計画の策定は議決事項であるため、現時点でこれに関係するような表記は望ましくないとの庁内意見があったことから、13年度以降は「ダイバーシティの視点が溶け込んだまちづくりの推進」という表現にしております。
続いて、8ページをご覧ください。3. 施策検討・実施の際の指針について説明します。
「基本的理念」は、前回の骨子から文書を整理し、また、委員のご意見を踏まえ、「地域への展開」に、民間の発想やスピード感を生かすため積極的な官民連携を進めることを加えました。
続いて下段の「取り組みの視点」の図については、前回、さまざまなご意見をいただいたところでございます。読みやすさを考慮し、視点1～4の順番は変えておりませんが、それぞれの視点の関係性を「基盤」、「掛け合わせ」、「チェック」で表し、すべての視点に共通する手段として、「デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用」を位置付けております。
また、複数の委員より、ダイバーシティまちづくりの先にあるこのまちの未来像は、やはり「住み続けたいまち」ではないか、とのご指摘があったことを受け、ダイバーシティまちづくりが「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」につながることを表現しました。
続いて9ページから14ページまでは、前回ご議論いただいた骨子の記載内容に肉付けをしたり、一部記載順の変更や内容の追加をしたりしています。
赤字については、指針に基づく具体の取り組み内容をイメージしやすいよう、これまでの事例を例示しています。視点1、視点2は市民協働の中で取り組んできたものが多く事例も豊富です

が、視点3、視点4は、ご覧のとおり、あまり多くの事例を挙げられておらず、今後、新たに取り組みを強化していく項目であると考えております。
それでは個々の視点ごとのご説明に移ります。まず9ページの、視点1「『ちがい』に配慮のある制度・サービスをつくる」については、①不利益をなくす、②平等だけではなく公平、のいずれも骨子案の内容を基本としております。
続いて10ページの、視点2「なくてはならない『ちがい』を守る」では、前回会議において、市民の学びの充実についてご意見があったことから、①「ちがい」への理解に、さまざまな学びや疑似体験の機会の創出を加筆しました。②「ちがい」の尊重については、骨子案の内容をもとに表記を整理しました。
次に11ページ、12ページの、視点3「『ちがい』から生まれる多様な価値観や視点をまちの力に変える」です。①については、骨子の内容を基本にしています。②については、前回会議でのご意見を踏まえ、属性にかかわらず自由に参加できる環境整備を新たに盛り込みました。
また、委員より、ちがいを持つ個人の多様な才能が発揮される場所の必要性や、オープンでフラットな場づくりが必要とのご意見があったことから、③掛け合わせに、多様な人々の発表の機会や表現の場について記載を追加し、地元中小企業への支援及び起業家育成の強化にかかる記載についても、委員のご意見を踏まえ表現を整理しています。
続いて、13ページの視点4「共生のまちづくりに向けて『まだ取り残されていないか？』と目を凝らす」です。
前回会議で事務局より、誰もがケアしケアされる「ケアの視点」や、居場所づくりに関する本市施策の方向性について紹介させていただき、田村委員から「所属（Belonging）」の考え方について説明いただきました。これを踏まえ、今回新たに③安心して暮らせる共生のまちづくりを盛り込み、合わせて視点4のタイトルの見直しと、箱囲みの記載の大幅な追記を行っています。
また、委員より「現在あるデータだけでなく、どのようなデータが必要なのかの検討も必要」とのご意見をいただいたことから、①実態の見える化にその内容を盛り込みました。
続いて14ページ「デジタルをはじめとした技術の活用」でございますが、こちらは①から③までのいずれも、骨子案でご説明した内容を基本に、記載内容を整理しています。
最後に15ページ、「4. 推進体制」です。前回会議において、多くの委員から、指針の進捗状況や課題を継続的に確認する仕組みや、データを活用した状況の見える化などについてご意見をいただきました。これを踏まえ、指針策定後は、全局区長が参画するダイバーシティ推進本部会議において、状況確認およびダイバーシティ推進に向けた協議を行い、全庁をあげて取り組んでいくほか、ダイバーシティ推進に関連するまちづくりの指標となるさまざまな分野の幅広いデータを取りまとめ、定期的に公表していきたいと考えております。
例えば、本市が毎年実施している市民意識調査では「これからも仙台市に住み続けたいと思いますか」という設問がありますし、人口動態や男女別育児休業取得率、企業も含めた管理職の男女比率など、国や県、民間の保有するデータなども幅広く収集し、「データブック」のようなものを作成してはと考えております。ざっとリストアップしただけでも100項目以上になるところですが、第4回会議において項目例をお示しできるよう準備を進めてまいります。
資料3については以上でございます。資料4は資料3の概要版となりますので、後ほどご覧ください。説明は以上です。

〇大隅委員長
ご説明ありがとうございました。
私からまず確認の質問ですけれども、最終的に出されていくときには、この概要版とそれから本編というのでしょうか、それがセットで公開されるという、そういった形ですね。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
はい。

〇大隅委員長
本日はこの資料3の方をベースにご議論いただけたらと思っております。
先ほど申しましたように、まず7ページまでの総論というのでしょうかね。全体的な理念とか、そういったあたりの書きぶりのところまでについてのご意見をこれから伺いたいと思います。
オンラインの宇田川先生は挙手マークをいただき、他の皆様は手を挙げていただくなどして、私の方で「次お願いします」というような形で指名させていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。
では本図先生、お願いします。

〇本図委員
大隅先生が7ページまでのところで、まず前半とおっしゃったところで大変恐縮なのですけれども、1ページの「世界から選ばれる都市へ」という、ここの文書がとても重要になるなあということで、そうしますと8ページの概念図と実は関わってきます。それでちょっとご容赦いただきたいのですけれども、非常に目立つ言葉なので、「世界から選ばれる」というふうに、客体になるのがちょっと気になっています。もし、あまり意味がないのであればもう「世界をリードする」とか、「世界的な価値を創造する」とかが適当でしょうか。それから「世界から」というときの「世界」が何なのだろうという、そういう疑問も出ないかなというところがございまして、むしろ、8ページにある、「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」だから世界から選ばれるという、ここのところは非常に納得行くところで、でもそれが「世界から選ばれる都市」へというふうに凝縮されたときに、この、前回皆さんと議論をした、前段に込められている安心して住み続けられる、みんなが活躍できるという言葉の良さがどうもうまく伝わっていってないのではないかなという懸念がございます。
でも、そのとき申しましたので、事務局でも、皆様も十分ご議論なさってのことだとは思うのですけれども、この冒頭の文書がやはり枕詞として重要になっていくと思います。その時に、「世界から選ばれる」だけが目立つと、世界から選ばれない都市もあっていいんだね、というような、そんなふうにも見えてしまうのですが、事務局でもご議論されているところだと思いますので、補足の説明をいただけたらという思いでおりました。

〇大隅委員長
ありがとうございます。
確かに目立つところですけれども、思いもこもっているかなというふうに拝察いたします。
事務局から補足はございますか。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
こちらの「世界から選ばれる」というところなのですけれども、本市の基本計画にそういった表現があります。4ページの年表のところに本市の基本計画、世界を見据えてとか常に高みを目指していく姿勢というのはこの「“The Greenest City”SENDAI」に込められているというのがありまして、これを、「ブースト」という表現をしておりますが、ダイバーシティ推進により基本計画を押し上げていく意味もあることから、基本計画で使っているフレーズをこの冒頭に持ってきているところでございます。

〇梅内まちづくり推進局長
追加でお話をさせていただきます。
今、課長から申し上げましたように、基本計画の中で「世界から選ばれる」という表現がありますが、基本計画を考えるときに対外的な仙台の知名度が足りないというようなご指摘がありまして、震災後の10年でもありますので、やはりこれから仙台としても対外的な打ち出しを強めよう、というようなご意見が基本計画を作る中であって、今ほど申し上げました4ページの「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というような話とともに、「世界から選ばれる都市」というのが副題

のようについているといった経過があり、これを活用したというところでございます。
只今、本図委員からもお話があったのですけれども、まさに8ページのところにあるように、「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」というのが前回ご議論いただいたものと承知しております。これを目指すのだけれど、これが結果的に基本計画に繋がるのだということを表現したいがためにこうしました。基本計画を作ったときの思いがなかなかこちらには書けないこともあり、確かにここでこう並べてしまうとわかりにくいのかなと思って今のご議論を聞いておりました。基本計画というのは10年かけて仙台が進んでいく方向を作ろうということで、議会の議決もいただいて目指しているものではありますけれども、その一部だけを取り出してつなげると確かに分かりにくくなってしまう部分があるんだと思っています。このあたりの表現は、考える余地があるかなと思っておりますので、今のようなご意見もいただければ、この次の段階までに整理していきたいなと思っておりますので、どうぞご意見をお願いしたいと思います。

〇大隅委員長
ご説明ありがとうございました。
なかなか難題だと思いますけれども、気持ちとして「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」をさらに超えたいというか、そういった思いがあるかなと私も思っています。
もう少し外向きというか、打って出るというか、閉じる感じではなくて、さらに人が出たり入ったり、そういったことが自由にできるような地域を目指していきたいというものが、皆さんもご納得いただいているところかなと思いましたので、ではまた汗をかいていただくことになりますが、よろしくお願いいたします。
本図委員ありがとうございました。
他にいかがでしょうか。
福田委員お願いします。

〇福田委員
前半戦というところで見させていただいた中で1つ確認と、1つ意見を述べさせていただきたいと思います。
確認は、7ページ「（5）仙台らしいダイバーシティまちづくり」の2段落目の文章で、2つ目の文面にある「（3）に掲げた通り」は「（4）」が正しいのではないでしょうか？確認でした。それが1点でございます。
意見としては、先ほどの本図委員のご意見とも近いところもあるのですけれども、4ページの一番下に書いております「世界を見据えたダイバーシティの推進」という土台の部分、その上の「世界を見据えて10年間で実現を目指す」という言葉についてです。「見据えた」という言葉は、ずっと見定めるとか、じっと見ているというような言葉にもなるので、せっかく仙台らしいダイバーシティを推進していくんだ！ということであれば、例えば「世界に示す」とか、「世界に誇れるダイバーシティの推進」とか、そのような言葉を使っていただくと、仙台市は前に進んでいくんだということを表せるのではないのかなと感じています。「見据えた」と言われると受け身のような形に捉えられるので、ご検討いただければ幸いです。

〇大隅委員長
ありがとうございました。
では、マリ委員お願いいたします。

〇マリ委員
ありがとうございます。
本図委員のご指摘にちょっと関連があるかもしれないですが、基本の考え方についてなのですけども、ダイバーシティは国籍だけでなく、社会の中に障害とか性別とかいろいろあるのですけども、国際的な視点から見ると、私が想像できるジャンル、種類は、海外から人を呼ぶ、世界か

ら人が引っ越して来てくれるということが1つ。例えば学生がいっぱい来て、仙台に残ってもらうということが2つ目。3つ目が、誰でも暮らしやすいということ。先ほどの議論でもあった、人を世界から呼ぶということが第一なのか、最後できあがったものにどこまではっきり言葉を残すかは別として、全て同じぐらいの優先度なのかということを聞きたいです。
よろしくお願いします。

〇大隅委員長
なかなか難しいご質問だとは思うのですけれども、マリ委員のご質問としては、仙台市としては、一体どのような方々に来て欲しいと思っているのかということですか。

〇マリ委員
いえ、国際的な視点から見ると、人は呼びたい。それから、来ていただいた人には残って欲しい。それと、今いる外国人も含めて暮らしやすい、という3つのことがあり、3つが同じぐらいの優先度をつけるか、それとも差をつけるのか別のことを考えていらっしゃるかです。

〇大隅委員長
それはもちろん3つともですよね。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
はい。

〇大隅委員長
人が来て、残って、その人たちが暮らしやすい環境にある、その全部を目指すというのが、このダイバーシティ推進のハート、スピリットだと思います。
他にいかがでしょうか。
では小宮委員、お願いいたします。

〇小宮委員
「世界」という言葉について私がご質問したいところが、この「世界」が何かレベル的なことを指しているのか、それとも何か特定の人だとか、その意味がどちらなのかなと。
例えば、先ほど福田委員もおっしゃっていた「世界を見据えた」と言うと、ある程度イメージしたダイバーシティの世界に対して、何か我々仙台がまだまだ遅れていて、そこに到達したいのか。それとも、7ページ、8ページの方にあるような、誰からも選ばれる世界を目指すのか。レベルの話なのか、人にとって受ける印象なのかが2つどちらなのかなというふうに思ったので、その点を質問させていただきたいです。

〇大隅委員長
はい。ありがとうございます。
筒井局長いかがですか。

〇筒井まちづくり政策局ダイバーシティ推進担当局長
「誰からも」という意味で使っています。私たちとしては、もちろん日本の中からも来ていただいても良いと思いますし、世界中から見て、ここは魅力のあるところだな、気になるまちだなというふうに思われたいとも思っているので、日本が駄目で世界から選ばれるとか、そういうような区別をしているのではありません。

〇大隅委員長
ありがとうございます。

主体的な、というようなニュアンスだと思いました。
田村委員お願いします。

〇田村委員
7ページの先なのですが、8ページの下の図が、前回から変わっていて、一番のポイントは、「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」というのが間に入っていて、「世界から選ばれる都市」というのは、結果論といいますか、誰もが安心して住み続け活躍できるまちであれば、他の国からも人が来るであろうという形になっている点かと思います。
まず目指すのは、「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」というところで、その結果として世界から選ばれる仙台になるのだと、こういう順番で整理するのが良いのかなと思うんです。
そういう意味で8ページの図はしっくりくるのですが、それが1ページのタイトルに、「多様性をまちの力に」「世界から選ばれる都市へ」となりますと、ちょっと押し出しが強すぎて、外部の人を呼ぶためにこれを作っているのか、というふうに。そこは順序としては今いる人たちの多様性を大切にする。もちろんそうしてきた仙台の歴史もあって、それをますます深めていく中で、結果として仙台が世界から選ばれるのだと、こういう書きぶりに1ページ目もなると良いのかなと思います。
前回と比べてカタカナ用語が減ったと聞いておりましたが、1ページの下から3行目と4行目のところに、「国際的な仙台のプレゼンスを高めることにつながります」とあって、この「プレゼンスを高める」というところが、「世界から選ばれる都市へ」というところとつながる言葉ではないかと思うので、ここをもう少し丁寧な表現にすることで、もともと言いたかったことがクリアになるんじゃないかなと。次に書き換えるときのポイントとしては、この「国際的な仙台のプレゼンスを高める」というのはもう少し具体的に言うとどんなことなのかということを議論していけば良いのかなと思います。
もう1つだけ気になるのは、この1ページ目のもう1個上の行の「都市個性」という単語が、この1ページと、あと7ページの（5）の四角囲みの中にも、「こうした本市の歴史文化や都市個性への誇りと愛着」というのが出てくるんです。私、この「都市個性」という日本語はあまり聞いたことがなくて、今、検索しても、仙台市の資料にしか出て来ない、私は初めて聞くかなという気がしていて、もしそれは仙台市として何か定義があるだとか、さっきの「世界から選ばれる都市へ」というのも、昔の資料に書いてあったということであれば、この「都市個性」というのも1つ、この仙台のプレゼンスを高めるというところと結構関連するのかなと思いました。もしこの「都市個性」という言葉に何か定義ですとか、仙台市として何か強いメッセージ性がある文書とかがあるのでしたら、そこから国際的なプレゼンスの話だとか、「世界から選ばれる」というのはどういうまちなのかというところのヒントがあるんじゃないかなという気がいたします。後半は意見といいますか、気になることを述べさせてもらいました。

〇大隅委員長
ありがとうございます。「プレゼンスを高める」というあたりの書きぶりが、世界から認められるというところと根っこのところが非常に繋がっているのではないかというご指摘で、次のバージョンのときに知恵を出していただきたいということ、また「都市個性」というのが少し特殊な言葉ではないかというようなご指摘を受けました。
市民とともに育んできた都市というだけではちょっと足りないという、何かきっとその思いがおありなのだと思いますので、また次のバージョンまでに少しお考えいただけたらというふうに思っております。
梅内局長いかがでしょうか。

〇梅内まちづくり政策局長
ありがとうございます。「都市個性」という言葉は、なるほどそうかと思って伺っておりました。当たり前に使ってしまっているのだなと思って。

よく市の内部で言われますのは、「学都」や「杜の都」など、そういった、仙台が呼ばれてきた、またあるいは自分たちがそのように言っているような状態のことを指す言葉として使っているというところがあります。「杜の都」を海外に適用するものにしたいということで「The Greenest City」という言葉を使ってみたりしているんですが、ご指摘を受けて、確かに行政用語なのだということを痛感しました。そのあたりの書きぶりについては直したいと思います。
また、「世界から」というのが強調されすぎているとのことで、今、田村委員がおっしゃいましたように、従前からお住まいの方の中でも、ヘラルボニーさんが典型ですけれども、障害をお持ちの方ももっといろいろな能力を発揮できやすいような環境が整っておりますので、女性活躍ですとか、年齢の問題ですとか、そういったものを超えられるような、というところで先ほど冒頭にありましたように、「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」を目指していくというのが基本ですので、ちょっと「世界」というのが出すぎているんだなということも、先ほどのお話の中で感じておりますので、そのあたりも少し修正をかけていければと思っております。

〇大隅委員長
ありがとうございました。
では続きまして、ビッティ委員お願いします。

〇ビッティ委員
いろいろ見て話したいのは、やはり5ページの「4つの類型」の件で、所属、Belonging を目指すのはもちろん一番良いことですけれども、具体的にはどうやってそれを目指していくのでしょうか。実際は、特に留学生の間では、自分で Segregation、すみ分けしてしまうグループが多いんですね。
国によってですけど、自分の国の人とばっかり遊ぶとか。別に日本じゃなくても、アメリカとかアフリカに行っても同じ結果で、そういうことがありますので、市はこういうことに関してどう行動する予定でしょうか。留学生だけじゃなくていろいろなコミュニティがありますから、このコミュニティのメンバーたちをどうやってまちに共生させて、そのあと所属させる予定でしょうか。
いろいろ説明されていますけど、やり方と目的の説明がちょっと足りないと思います。

〇大隅委員長
はい。ありがとうございます。
具体的にそれをどうするのかというところは、むしろ後半のところにもかかってくるところなので、そこでもう一度振り返るとして、現時点で何かご説明はありますか。

〇筒井まちづくり政策局ダイバーシティ推進担当局長
後でもう一度皆様にも見ていただきたいと思っておりますが、13ページの視点4のところに「Belonging」の項目を新たに加えておりまして、①②というのが前回までは書かれていたのですが、③というところを加えています。
ここの「Belonging」の状態を地域の中にどうやって作っていくかということについては、皆様からもご意見をいろいろいただきたいと思っているのですけれども、我々として考えているのは、今ビッティ委員からもありましたけれど、人と人との交流の中でちがいを理解していって、その中でお互いに助け合ったりしながら、そういうことが地域の中でたくさん起こることで、「この地域に住んでいて良かったな」とか、「もっと住んでいたいな」というふうになっていくと思います。都市として、まちづくりとしていろいろなことをやるときに、やはりそういった交流が生まれる場所だとか機会だとか、そういったものを意識してたくさん作っていく、それもできるだけ、様々な属性の方たちが自由に出入りできるような、そういう交流の場を作っていくということが大事なのではないかなと思っておりまして、そういうことを視点4の3番のところに今回書き加えたということです。
これは突然ここで出てきたわけではなくて、先ほどから何回も出てきている仙台市の基本計画

だとか、仙台市がずっと進めている市民協働の考え方についても、やはり交流を生んでいくということが中心になって我々はやってきたと思っておりますので、そういったこれまでの取り組みを土台にして、それをもっとこのダイバーシティの視点からも進めていくということが、1つ、持たなければいけない考え方なのではないかなというふうに思っています。

〇大隅委員長
ありがとうございます。
小林委員お願いします。

〇小林委員
2点ありまして、1つ目はこれまでも何回も出ていた「世界から選ばれる都市」というところですけれど、私自身は背景も理解したのでここの記載はいいんじゃないかなと思いました。ただ、この1ページ目の文書の中に、先ほどから何回も議論に出てきている、重要な文言になりそうな「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」という文言が全く入っていないわけですけれど、これを最後の2文、最後の1段落のところに入れたら、読めばちゃんと伝わるんじゃないかなと思いました。ジャストコメントです。
2点目は、これも小さな話ではあるのですが、7ページ目の(5)の「仙台らしいダイバーシティまちづくり」とあるのですけれども。これをパッと見たときに思うのは、仙台らしいダイバーシティまちづくりの定義がこの①②③のように見えてしまうなと思いまして。文字が大きいというか、ちょっと間が空いて書かれているので、ここがそういうふうに見えてしまうのです。本当に言いたい、仙台市らしいというのは、この四角で囲まれているような、仙台の個性というのを生かしたまちづくりだと思っています。何かここがパッと見たときに、ミスリーディングになっているんじゃないかなというのが思ったことでして、例えば①②③の上にダイバーシティの定義みたいな文言を入れるとか、仙台らしいダイバーシティの定義とは違いますよというのがわかるようになった方がいいんじゃないかなと思いました。

〇大隅委員長
どうもありがとうございました。
筒井局長お願いします。

〇筒井まちづくり政策局ダイバーシティ推進担当局長
具体的な修正のことを言っていただいて本当にありがとうございます。この①②③が、あまり目立たないように、だけど読みやすいように、といろいろやっているうちに今こうなっているんですけれども、おっしゃる通りだと思いますので、もう一度程よい感じの書き方になるようにしてみたいと思います。
それと、1ページ目については皆様からお話があった最初のこの一番上のタイトルのところに、「世界から選ばれるまち」と書いてしまっているのもどうなのかなというのと、やはり最後のところが少し飛躍しているというか、何かこう真ん中の大事なところが抜けてしまっているみたいになっていると思いますので、今の皆さんからいただいたご意見をもとにこの1ページ目についてはもう一度検討してみたいと思っております。ありがとうございます。

〇大隅委員長
はい。ありがとうございます。1ページ目、一番大事なところかもしれませんね。
宇田川委員お願いいたします。

〇宇田川委員
まず初めに、本日、子どもの体調不良のためにオンラインで参加させていただきました。
急なお願いにもかかわらず快く対応してくださいまして、事務局の皆様には感謝申し上げると

ともに、子育て世代にも配慮していただきまして、ダイバーシティ推進のための会議であるというふうに実感いたしました。どうもありがとうございます。
指針案の総論部分を拝見しまして、これまでの議論のエッセンスを十分に取り入れられてまとめられた、本当に苦労された指針案であるというふうに率直に拝読いたしました。
前回の会議では、「仙台市らしい」という話がいろいろなところから出ていたと思うんですけれども、それがちゃんと形になって、このように具体的に指針案として提示いただきまして、私としては非常にわかりやすく、よく、あれだけさまざまな意見をまとめられたなというふうに、本当に思っております。
これまですでにご意見が出ているところの追加にはなるのですけれども、やはり私のコメントとしては、「世界から選ばれる」というところの「世界」というところが同じように気になっておりました。やはり「世界から選ばれる」というと世界が主体に見えてしまうので、例えばですけれども、「世界の中から選ばれる」とか、あるいは、「あらゆる人から選ばれる」とか、そういった、さまざまな人が主体になるというような表現を選ばれると良いのかなというふうに思っておりました。局長をはじめとして検討されるというお話なので、良い言葉を選ばれると思いますけれども、意見としてコメントさせていただきます。

〇大隅委員長
大変な中、オンラインでご参加いただきありがとうございます。また貴重なご意見もありがとうございました。
石井副委員長お願いします。

〇石井副委員長
概ね皆さんの意見と共通するところではあるんですけれども、あえて言うと、議論になっている「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」、これはすごく良い、大事なフレーズだと思います。
ただ、これはダイバーシティじゃなくても必ず出てくる。例えば、高齢化社会におけるまちづくりだとかでも通用する言葉ですね。だから良い、ということもあるけれども、一方で、ダイバーシティの推進を図るということを大前提にするのであれば、私は例えば先ほど議論のあった7ページの（5）の①②③が、これから進めていくにあたって、市の職員の皆さんが目指すべき状態像だと思うんです。これ抜きには語れないし、ここを目指して、この視点1から4までがある。それはどういうことかわかりやすく言うと、「誰もが安心して住み続けるまちづくり」でもあるし、それがしっかりと定着していけば結果的に「世界から選ばれる」という話になっていくと思うのです。ですから、この図の中でもそうですし、ストーリーの中でも、仙台市が目指すダイバーシティの状態像をきちんと示した方がよいのではないでしょうか。当たり前のことだけれども、そこを軸に置いてこの議論を進めている、またいくんだということがわからなくなってしまうような気がするし、単なるまちづくりの話をしているような感じにもなってしまうので、その根底にあるのは、このダイバーシティを軸にした議論であり、それを通してのまちづくりを考えているんだ、というところを忘れないためにも、そこをしっかり押さえておく必要があるのではないかなと。例えば8ページの図でも、スタートラインにこの目指すべき状態像を示して、それをするためにこういうことを実行していくんだ、というようなストーリーにした方がしっくりくるかなという気がしたところです。
あとは細かいところで、歴史文化という言葉があるんですけど、これが「歴史文化」と 4 文字になるのと「歴史・文化」と中点が入るのと「歴史や文化」となるので、そのあたりの統一というのと、あと「変革」と「変化」というのが両方あって、最初に「変革」という言葉が出てくるのですけれども、6 ページの下のところの一部は「変化」になっている。このあたりも少し言葉として統一したら良いかなと気付いたところです。

〇大隅委員長
ありがとうございました。いろいろまだまだブラッシュアップできるところがあるということで、ご指摘ありがとうございました。次のバージョンに生かしていければというふうに思っております。
田村委員どうぞ。

〇田村委員
また細かい話なのですが、2点、1ページ目の冒頭、はじめにというか、大体これ、下の空白のところに市長の名前が入ったり、委員会の名前が入ったり、これ誰が言っているんだというのが大体この右の下に入るんですけれども、それは入れるのか入れないのかとちょっと気になっているところです。
次に、4ページの年表が400年前から突然戦後になるんですが、東北大学での女子大学生の受け入れとか、留学生の受け入れも、定禅寺通ケヤキ植栽の前に入っていた方が良いかなというふうに思います。

〇大隅委員長
どんどん細かくなりそうな感じではありますけれども、可能な限りご配慮いただけたらと思います。東北大学の女子大学生受け入れについては、やはり日本で最初ということもございますので、そういった意味では、世界に誇れる点かなというふうに思います。
マリ委員お願いします。

〇マリ委員
先の質問と重なって繰り返しになってしまいますが、やはり優先順位をはっきり聞きたいなと。先ほどの田村委員のコメントにもあった、誰もが暮らしやすいことが最優先で一番大事で、その後に海外からの人が入ってくるという順番、私もそちらが正しいと思います。
ただ、誰でも住むということと海外から人が来るということはイコールではないです。自分の国も暮らしやすいから。
福祉がちゃんとあります、保険がちゃんとあります、美しい公園があります、だから仙台に引っ越す、ということはナンセンスなので、同じものではなく、別な活動が必要と思います。

〇大隅委員長
やはり、実際に施策を実行していくということを想定すると、プライオリティ、順番について、仙台市の中であらかじめ考えておいていただく必要は大変あるかなというふうに思いました。ありがとうございます。
そうしましたら、より具体的な方に入っていけたらというふうに思いますが、後半部分に関しまして、後半部分と呼んでおりますのは、8ページ以降ということなのですけれども、適宜振り返りや前半部分も含めても結構ですが、何かご意見やご質問等々いかがでしょうか。
では本図委員お願いいたします。

〇本図委員
9ページの平等ではなく公平というところと、図のところなんですけれども。私の専門は教育学なのですけど、制度とか政治みたいなところも関わっていて、先ほど大隅先生が、前半は前半、後半は後半とおっしゃったのにまた前半に戻るかのようなのですが、冒頭の1ページのところぐらいは、希望としては市長の名前だと良いなと思っていて、そして1ページぐらいは英語にしていてほしいなという思いがございまして、細かいところまで英語じゃなくても良いのですけれども。
そうすると、「公平」というのは、私のような分野だと、英語にすると「Equity」で「公正」なんですよね。でも「公正」じゃなくって、私たちが日常感覚で使う「不公平じゃない」というときの「公

平」ということでも良いんですけども、大きな哲学的な概念で「公正」ということはあるので、そこは「公平」ですね、と。
もう1つこの図のところが、素案のときにお尋ねしましたら、田村委員のところで作ってらっしゃる図だということで、それはそれで仙台市との契約で良いのですが、最近いろいろなことで著作権が厳しいので。教育関係でもインターネット上のフリーイラストを使ってお便りを作って、請求が後から来て大変なことになったという、そういうことが起きています。この図が、皆様ご存じのように学生もよく持ってくるんですけれども、似た図があるんです。学生に出典はどこか聞くと、いやネットに出回っていてわかりません、と言うのです。球場を見ている図ですが、おそらく誰かが作ってインターネット上に出ているものだと思うので、本当にこれからこの文書が注目されていくべきだと思いますので、そういうときに、オリジナルでインターネット上に出ているものと、その作った人から見ると、著作権侵害されている、というようなことは、絶対大丈夫だというふうにしていただけるといいなと。少し前だったら教育の方でも、フリーイラストって出ていたので使いました、いやいやそんなことないんです、法外な請求します、ということが実際に起きているので、ちょっと念には念をという、その2点でございました。

〇大隅委員長
ありがとうございます。
「Equity」の問題等々は、十分配慮できているかなというふうに思いますけれども、誰の名前でというあたりのところも後で整理していただくとして、クレジットに関して田村委員の方で何か今の時点でありますか。

〇田村委員
もともとはよくある球場の図で、それよりはもう少し違うのが良かろうということでこれを作ってみて、大丈夫かなという確認はしていますが、仙台市でこういうものを作るときにこういうふうに確認していますよというプロセスがあるのであれば、それを踏んでもらったほうが良いかと思います。ひょっとしたらこのイラストなくても良いかなという気もしてきまして、読めばわかる部分もありますし、世の中によく出回っている図ですので、そこは慎重に対応していただければ良いかなと。私たちで考えうる限り問題ないだろうということで出しておりますけれども、そこは仙台市としてこういうものを出すときに何か確認するルールがあるのでしたら、そこで確認していただいた方が安心ではあります。

〇大隅委員長
はい、ありがとうございます。
では、大沼課長。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
著作権の表記につきましては、一旦持ち帰り、内部で確認して整理させていただきたいと思います。

〇大隅委員長
ありがとうございます。
逆に仙台市がこういうふうに出したものをインターネット上に置くときに、どのように使っても構わないかということもまた明確にしておいていただけると良いのかなと。私としては、皆さんが活用していただくということはむしろ、広げるという観点からは重要かなというふうに思った次第です。
他にいかがでしょうか。
福田委員、お願いします。

〇福田委員
中身自体は、本当にこれまでの議論をうまくまとめていただいていると感じております。
その中でやはり違和感を感じるところは、意見を聞いている中で、8ページの下の図の視点3の部分に関しましては、前回小林委員や小野委員から、ゼロからプラスというところの活動が非常に大切！というお話があり、僕自身もすごく重要な部分かなと考えております。
視点4の「チェック」、そして視点1と2の部分が「基盤」とありますが、私からすると、視点4の部分が基盤であって、1と2というのは活動＆行動であると思っております。
また、14ページの「共通：デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用」の部分でも言えますが、最後に現状分析の段階で「チェック」という形になっているのですが、やはりダイバーシティの推進の指針なので、私の考えからすると、まずはチェックや確認があって、そこから実際に行動に起こして推進を生み出す流れが相応しいと考えます。
これらは、前回もお話させて頂いた内容です。視点4が一番前に来て、その後に「掛け合わせ」でのプラスに持っていく行動にして、その行動で世界から選ばれる都市へというふうに持っていくのがよろしいのかなと思っています。
14ページもどちらかと言ったら、データに基づく現状分析をしてからの促進や技術の開発というところに謳った方が、スマートに見えるように感じます。

〇大隅委員長
ありがとうございます。
PDCA サイクルという言葉があって、Plan、Do、Check で、また Action なので、結局グルグル回るということなのだとは思うのですけれども、現状で、例えばちがいに配慮のある制度やサービスを作るときに、その「目を凝らす」というのは当然、先に何かあるべきことだとは思います。
ただ、今の書きぶりだと、視点の4というのは、まだ誰か取り残されていないかさらに目を凝らす必要がありますよねという、要するに、1、2、3 で終わりじゃないですよというようなことを、多分言いたかったのかなと思う次第です。概念というか、その中に息づく気持ちといいますか、それとしては当然のことながら、いろいろ調査というか分析もした上で、良いサービスなどを作っていくということはもちろん当然ということで、仙台市がすでにやってらっしゃることだとは思います。
ですので、9ページ以降に、これまでの取り組み例として、いろいろ赤字で書かれている部分というのは、これまでの部分がダイバーシティの観点で見たときにどうなのかということを、まず分析していただいている部分かなとは感じています。
では小宮委員お願いします。

〇小宮委員
今お話のあったこれまでの取り組み例というのが、これが指針の中で、今どのレベルなのかというのがちょっとわからず。要は、ある程度基準としてやらなければならないもののうち、どのぐらいができているのかというのが全くここではわからず、事務局のコメントの中でも、最後の方はちょっとやっていることが少なくなってきていますが、というふうにお話があったのですが、何と比較して何ができているのかというところと、やはり指針なので、当たり前のものをもっと加えていく指針なのか、サラリーマン的に言うと、いやいや、もっと新しいことを考えてくれよ、これを超えるものを何か考えてくれ、という指針なのか、これまでの取り組みの例の位置付けというのを教えていただきたいなと思って質問させていただきます。

〇大隅委員長
課長お願いいたします。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
今回、4つの視点の項目ごとに星印で具体的な行動を書いているのですけれども、抽象的な表現が多いので、職員がこれを見ながら具体的な行動を起こそうというときに、何のことを言っているのかが分からないとなるのでは困るので、職員がこれまでやってきた中で、例えばこういうことがこの文言の意味に込められているんですよというのをわかりやすくしたいということで、赤字のところを作って付けているというところでございました。

〇大隅委員長
そのご説明を受けて、小宮委員、さらにございますか。

〇小宮委員
これはどちらかというと職員に向けた指針ということでよろしいのでしょうか。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
はい。

〇大隅委員長
実際にはこれは、公開されて誰もが読むものになるわけですね。この赤字が含まれた状態で出ていくという理解でよろしいですか。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
こちらも悩んでいるところではあるのですけれども、やはり文言が抽象的ではあるので、具体的な例示がないと何のことを言っているのかわからないだろうなというのもありつつ、一方で具体例があることによって何かを縛るように見えるのも良くないなというところは感じています。

〇梅内まちづくり政策局長
悩んでいる部分でありまして、赤字のところ、先ほど申し上げたように、内部で議論するときにわかりやすいように入れているのですが、ほとんどの事業はやはり市民の皆様に関わる部分も多々ありますので、おそらく市民の皆様に見ていただいたときに、こういうことかというふうにわかっていただける方もおられるとは思っています。
ただ、これまでやってきたものなので、もちろんこれから新しいものを加えたり、さらに厚みを増したりしていかなければいけないので、どこまでできているのかという小宮委員の指摘は全くその通りです。我々の方でも手をつけたばかりのものもありますし、かなり歴史を持って周囲の皆さんと一緒に進めてきたものもあるので、これを最終版の段階でどうするかというのもまだはっきり結論が出ていないのですが、中間案を出す際に見ていただくにはあった方が良いのではないかと考えていて、この形でご意見をいただいた上で最終案に向けてまとめていきたいと考えているところです。

〇小宮委員
読み手が職員なのか市民なのかとかそういうことを考えたときに、市民だったら、今後何をしてくれるんだろうという期待が、市がこんなことを取り組んでいきますというような事があった方が、何か希望が持てますし、ここの指針の出し方を、誰を対象にというのはこの赤字のところって、未来を見るのか、これまでの壁を超えていくのか、何かそこがちょっと見えるといいなというふうに思いました。

〇大隅委員長
非常に重要なご視点ありがとうございます。

私も今のお話を聞きながら、どちらかと言えばこのこれまでの取り組みは全部まとめて、一覧表みたいな感じで、この施策はどの視点の部分にちょうど該当しますねと、またがるものももしかするとあるかもしれない、丸をつけていくとかいろいろやり方はあるのかと思いますし、また、仙台市がこれまでこんなにもたくさんやってきたということを改めて振り返ること自体、とても大事なことなのではないかなと思いました。
ですので、最終版を作っていく過程で、このあたりの実際のスタイルといいますか、そのあたりをどうしていくのかというのについてはまた少し揉んでいただけたらと思いました。

○筒井まちづくり政策局ダイバーシティ推進担当局長
なかなかここが本当に難しくて、指針なので、施策をするときに気をつけなければいけないポイントみたいなものをまとめているというのがこの指針の趣旨です。そうすると、やはり施策をする側である職員がこれを見ながら、自分たちが考える施策にあたって、そのポイントでもっと例えば対象者を広げるとか、やり方を変えるとかそういうことをしていくということのために作っています。それは最初の位置付けのところにも書いているのです。
そうなると、内部のものなのだから市民に見せる必要があるのかという話があるのですけれども、やはりその施策の影響を受けるのは市民なので、私たちがどういう考えに基づいて施策を考えているのかということは、市民の皆さんにパブリックコメントの形でご意見をもらいたいなと考えています。
ただ、この抽象的なポイントみたいなものを見たときに、我々はそれでも施策を作っている側なので、ある程度それはこういうことかなとか、こういう施策のここを変えていくという話を言っているのかなとわかるのですけれども、市民の皆さんにはちょっとわかりにくいだろうと思いまして、今回、取り組み例という形で、今までやってきたことで、このポイントを踏まえている施策はこれですよみたいな例示をすることで少しわかっていただけるかなと思い、ここを入れました。そうすると確かにこれが指針の一部なのかそうじゃないのかということが、だんだんわかりにくくなってきているのは、おっしゃる通りだと思います。
確かに委員長がおっしゃるように、それを切り離して別の紙にするというところで解消できる部分もあるなというふうに今思っておりまして、どういう表現の仕方ができるのか考えてみたいと思います。
パブリックコメントのときには、この指針に基づいてこういうことをやって欲しいということ、たくさんご意見が出ると思っていまして、そのこと自身、私達は例えば来年度の予算ですとか、これから作っていく個別の計画の中にそういった意見を取り込んでいくことは十分できるので、この指針のポイントがどうというよりも、市民の目線からこれに基づいてこういう施策ができるんじゃないの、みたいな提案は十分もらっても良いものだと思っていますので、そういう意味も込めて今回、市民の皆さんにこれをお示ししてご意見をいただきたいというふうに思っています。

○大隅委員長
ありがとうございました。
では、オンラインの宇田川委員お願いいたします。

○宇田川委員
後半部分について一読した際に、今ご議論いただいていた取り組み例については記載しているのですけれども、今後の取り組みについて具体的に記載されていない点がまず気になりました。初回の会議でも KPI の設定という話も出ていたかと思います。
ただ、会議の事前のご説明の中で、個別計画の中で KPI を設定されて、本部会議を通じて決定・公表されていくというふうにご説明いただいておりまして、個人的にはそれぞれの個別事業は私どもの方で網羅的に把握することは困難だと思いますので、指針の中では記載せずに、今後設定していくということで問題ないとは思っているのですけれども、今一度この場で、事務局

の方から、KPI の設定や公表の点についてご説明いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

〇大隅委員長
ありがとうございました。
大沼課長お願いします。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
ありがとうございます。
今回策定するのは指針ですので、個別の施策については掲載しないところでございますが、以前より KPI についてお話はいただいていたところでございます。
先ほど、7ページのところで、今後の進め方というところで、実施計画ですとか個別計画に今後ダイバーシティの視点を拡張していくという点と、また、例えば喫緊の課題で外国人住民の増加に向けた環境整備など、そういったところについては具体的に進めていくというところでございまして、そういった喫緊に取り組んでいかなければいけないことについては、KPI のような形で、何らかの目標みたいなものは考えていきたいなというふうに考えているところでございます。

〇大隅委員長
ありがとうございました。
宇田川委員、今のご説明でいかがでしょうか。

〇宇田川委員
どうもありがとうございます。
こちらの指針と同時に、何か主なものは公表されるというような説明だったのかと理解していたのですがいかがでしょうか。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
これから予算要求の時期となりますが、来年度、再来年度ぐらいで、今後取り組んでいくべき内容につきましては、こちらの指針の公表と同時に、KPI も付けながら皆様にわかりやすい形でお示ししていきたいと考えております。

〇大隅委員長
はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。
他にいかがでしょうか。
ではビッティ委員お願いします。

〇ビッティ委員
編集の問題かと思いますけれど、PDF で、ダウンロードできる形でアップロードされるということですね。そうしたら、いろいろ例とか書いてありますけど、具体的に何か URL とかをつけた方がわかりやすい。具体的な例で、例えばやさしい日本語の講座ですけど、実際にやったのなら講座の名前を書くとか、あるいは URL に飛ばすように設定した方がわかりやすいと思いますね。
そしてこの13ページは急に具体的なことになって、「SENDAI データダッシュボード」だとか、やはり読むだけでは一体どういうことかわからない。ここまではすごく一般的な、何か概要的な言葉で説明されているのに、急に「SENDAI データダッシュボード」ということで、一体何のことかとわかりづらいので、バランスを見て、そして、さらに URL を付けたらいかがでしょうか。

〇大隅委員長
ありがとうございました。
オンラインで公開するときのいろいろな工夫というのは、まさにデジタルでできるところかなということで、大事なご指摘ありがとうございました。
では、マリ委員、お願いします。

〇マリ委員
ありがとうございます。
先ほどの話にちょっと戻りますけれども、考え方と今まで取り組んでいることの事例の話なのですけども、提案としては、実際すごく難しいと思いますけれども、政策みたいなことを書くことは厳しいですが、もうちょっと具体的なイメージのために、これまでできているものではなくて、これからこういうイメージで取り組んでいこうみたいなことと、でも仙台はこのぐらいもう始まりましたよ、みたいなつながりがあれば良いと思います。実際にはそれはすごく難しいと思いますけど提案でございます。

〇大隅委員長
ありがとうございます。
指針の中にこれからどこまで盛り込めるかというのは、なかなか厳しいところもあるかもしれませんけれども、やはり未来が見えるような形のものが出ていくのが望ましいかなというふうにも感じます。
他にいかがでしょうか。
では小林委員お願いします。

〇小林委員
11ページ、12ページ目あたりの視点 3「③掛け合わせ」のところに関して、5つほど思っていることがあります。
まず大前提として、この資料の1ページ目で、「多様性をまちの力に」変えていくというのがタイトルにも入っていた通り、やはりこの「掛け合わせ」を通してまちの力に変えていくというところが私自身は一番重要だと思っています。その点で考えたとき、まずこの「③掛け合わせ」というところのタイトルのところなのですけれども、他のところは「安心して「ちがい」を表現できる」とか、結構具体的な文言なのに対し、ここが「掛け合わせ」だけで何かパッと読んだときに、掛け合わせによってどうなるんだろうというのが、あまりイメージがつきづらいかなと思いました。
前回の議論のところでも、もう少しイノベーションですとか、そういったものを含めて、もうちょっとこの「掛け合わせ」の部分を強調できるんじゃないかという話があったと思うのですけれども、例えば、ここの書き方を「掛け合わせによる革新的な産業創出」とか、実際にこの後の文言にも出てきていましたけれども、まちの力、経済の発展とか、そういうものに繋がっていきそうだなという文言にタイトルを変えるだけで大分見え方が変わるんじゃないかなと思いました、というのが1つ目です。
2つ目ですけれども、この「掛け合わせ」のところで3つ星印が入っていると思います。で、この12ページ目に記載の3つの星印のうちの2つ目、12ページ目の一番上のところに「発表の機会や表現の場を設けていきます」という記載がありますけれども、これって「掛け合わせ」のところに書く内容なのかな、というのがちょっと思いました。②の「対話・交流の場をつくる」の方が適切なのかなと。あえてここに入れている意図があれば全然構わないんですけれども、②の方に組み込んだ方が適切なのかなというのが、読んでいて感じたことです。これが 2 つ目です。
3 つ目は、その次の「③掛け合わせ」の星印3つ目の文書なんですけれども、ここで言いたいことが、革新的な産業を創出するだとか、そういったことなのであれば、スタートアップ企業という文言を入れていただけないかなというのは、読んでいて思いました。本当にこの産業、特に革新的だと呼ばれるような、そういう産業を作っていく主体になるのはスタートアップ企業だと思

っています。そういうことも考慮した「起業家」という文言もあるのかなと思うんですが、起業家の中でもやはりいわゆるスタートアップ企業とそうではない企業というのは全然違いますので、何かこうスタートアップ企業を支援していくみたいなニュアンスが出てくると、文言の中では適切なのかなというふうに思いました。
4つ目は、ここの文言のところで、「地元中小企業への支援や起業家の育成を強化することにより」というのがありますけれども、ここってあまり多様性とかダイバーシティとかと繋がりがないように見えてしまうんじゃないかなと、私は読んでいて思いまして、その後に続く、例えば「世界に影響をもたらすような新しいビジネスモデルを含む」とか「革新的な産業」みたいなことに繋げていくのであれば、スタートアップ企業の文脈で言うと例えば「スタートアップ企業のグローバル化を支援していく」ですとか、ダイバーシティの指針ですので、何かもう少しダイバーシティに関連するような具体的な文言にしてもいいんじゃないかなというふうに思いました。
最後に、1つここの「掛け合わせ」のところに追加で入れたらいいかなと思ったのが、この「掛け合わせ」によって循環が生まれていくみたいな、何かそういう文言を入れられないかなというのが、読んでいて思っていたことです。
と言うのも、「掛け合わせ」によって、革新的な産業ができていく。それによってさらにいろいろな若者が定着していったり、海外から人が集まってきたりで、雇用も増えて、そういう好循環ができてさらにそれによって「掛け合わせ」がされていくと、こういう好循環みたいなものを入れることができると、まちとして発展していきそうだなと。そういう1個1個の取り組みがまちの力に変わっていきそうだなという、そういう雰囲気を作れるんじゃないかなというふうに思いました。
細かいところも含めてだったかもしれないですけれども、読んでいて思ったところになります。

〇大隅委員長
小林委員、スタートアップを率いていらっしゃる視座からのたくさんのご意見ありがとうございました。
全てきっと仙台市としてはもう、どんどんやりたいというところのど真ん中にはまっているコメントだったと思いますので、次のバージョンに入れられることと思います。
田村委員お願いいたします。

〇田村委員
今のお話で言いますと、14ページのデジタルの方に、スタートアップのグローバル化の支援とか、多分スタートアップっていうのはまたカタカナだから直せって言われそうな気がするんですけど、新しいチャレンジを応援するみたいなものが、視点3もですけれども、14ページのデジタルのところでも入ってくると、より具体的かなというふうには思いました。
あと細かなところですけれども、最後の15ページの本文ですね、文書「ダイバーシティ推進に関連するまちづくりの指標となるさまざまな分野の幅広いデータを取りまとめ定期的に公表していきます」ですが、多分取りまとめの後に、「何々や何々などで定期的に公表していきます」というふうに、さっきデータブックの話がありましたけれども、例えばウェブサイトだったり市の広報だったり、データブックなどで定期的に公表していきます、と具体的に入ると、文書として読みやすくなるのかなと思いました。
あともう1点。取り組み例が、仙台市の取り組み、市役所の取り組み中心に拾ってもらっているんですけど、せっかく歴史背景のところで市民協働をいっぱい謳っていますので、協働でやってきたような事例をもう少し足してみたら良いのかなと思います。あるいは民間の事例も、例えば時差出勤なんかは民間でもやっていますしね。民間の事例も例えば委員の皆さんの中で仙台でやっていることで、もう少し書き足せるようなものがあるのであれば、これまでの取り組み例の中に、民間の事例、あるいはその協働の事例をもう少し書き足しても良いのではないかと思いました。

〇大隅委員長
貴重なご意見ありがとうございました。
では石井副委員長。

〇石井副委員長
この指針が、基本的には庁内の職員がまずダイバーシティを意識するためのものだということを理解し、それを市民にも公表するということもわかりました。この次の段階なのかもしれないけど、市としての推進の先に市民に対してももっと訴えかける、また庁外に向けてのアピールする際には、多分別の伝え方を考えていかないと、つまりこういうことに納得してもらって共感を得るような表現の仕方と伝え方をすることが次の段階で必要となるのではないかなと思うんです。
まずは庁内で、「自分たちはこういう姿勢で取り組みます」ということを、ある意味宣言をしながら、一方でそれらは市民皆さんの協力もないとできないことなので、それを次のステップとしていくような表現の仕方が何かあるのではないかなということを思ったところです。
をしたいところです。例えば10ページの「「ちがい」への理解」とか「尊重」で体言で止めているんですけれども、これを動詞で「する」とか「できる」とか、さらにもっと言うと、もう少し強い意思を示すのであれば、そのあとの文書がそうなので「します」というような形にする。つまり「なくします」とか、「目指します」、「理解します」とか、市としての強い意思を示すような表現にした方が、「わたしたちは〇〇します！」という姿勢伝わってきて良いんじゃないかなという気がしました。
それと、あと細かいところで言うと、同様の主旨ですが、13 ページの③のところの、最初と次の星印は「重要です」とか、「変えていくことができます」となっていて少し引いた感じなので、主語を「私たち」や「仙台市」ということにするのであれば、「互いに支え合う視点を大切にします」とか、星印2つ目は、「大きな力に変えていきます」とか、その辺を整えるだけでも雰囲気が変わると思います。14ページの「共通：デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用」のところも揃えるのであれば「する」と直すのがよいか。そのあたりを統一していくだけでも、誰が主語でこれをやろうとしているのかが明確になるのでよいのではと感じました。

〇大隅委員長
ありがとうございました。
仙台市がちゃんと前を向いて進んでいきますという姿勢が見えるような表現で、なおかつ統一をなるべくできると、文書としても美しいかなというふうに思います。

〇本図委員
細かいんですけれど、でもちょっと大きなことで、8ページの一番冒頭に「日本初の女子大生の誕生」とあるのですけれど、これ東北大のことですかね。

〇大隅委員長
はい。

〇本図委員
そこは「女子学生」という表現かなという気もしました。「誕生」と言われると、何かちょっとこう、駄目じゃないんですけれど違和感があるところと、東北大での3名、高等教育での3名も重要なのですけれど、中等教育のところでも早くから、当時で言う裁縫学校とか、体操学校とか、当時の文脈の中で一生懸命女子教育をやってきている伝統もあるので、女子の学びということも古くから、本当に明治の初期から頑張ってきたというところも入れていただけるといいのかなと思いました。

〇大隅委員長
キャッチーにするために、「女子大生の日」というので記念日登録はしているんですけれども、でも正確には「女子大学生」とか、そういった言い方の方が、市からの文書のときには良いかなと思いましたし、今、本図委員からは他にもいろいろな初期からの女子、女性活躍促進の取り組みがあったというようなご指摘をいただきました。
ありがとうございます。
はい、田村委員。

〇田村委員
なぜ東北大は女子学生を受け入れたのかとか、留学生を受け入れたのかとか、何かもう少し背景の部分が書かれていると良いなと。
私、2年前から日本女子大で授業を持っていまして。日本女子大で言うと、「なぜ」というのは結構バンバン前に出して、女子教育をいかに大事にしてきたかみたいなことを語っているんですが、そこがもう少し書かれてもいいのかな。結果として、女子大学生が日本で初めてですよっていうのはわかるんですけれども。

〇大隅委員長
ありがとうございます。
日本初の女子大学生は女子枠ではないというのは、先日申し上げたかと思うのですけれども、結局3番目の帝国大学だったので、より多様な人材を受け入れないと人材不足になるなということを、初代の澤柳政太郎という文部省出身の総長が考えられて、師範学校を卒業した人に門戸を開放するんだったら高等女子師範学校があるじゃないということになって、そこの校長先生が「うちの卒業生も受験資格あるんですか」と聞いて、「大丈夫ですよ」となって、それで受けさせたという。さらに、高等教育を受けた後に母校に戻ってきてもらって、そこで女子教育に携わるというキャリアパスまで考えて、というようなお話が実はいろいろあるのですが。

〇田村委員
それは大変重要で、さっきのスパイラルというか循環の話にも繋がるし、どこかに書いた方が良いかなと。
留学生に関してもそうなんですけれど、さらっと歴史で事実だけ書くというよりは、背景のところで触れておくと、より説得力が増すような気がいたしました。

〇大隅委員長
広報担当をしているので、東北大学の歴史、いろいろ語ろうと思えばできるんですけれども、例えば東北大学の建物を作るのに、当時の文部省はもうお金がないので、要するに国のお金だけではできませんということで、県とかそれから民間の企業ですね、古河鉱業さん、そういったところもかなりの出資をいただいてできたとか、そういった意味では、最初から本当にダイバーシティというか多様性を大事にしながら来たということがあります。ちなみに魯迅が来て、ちょうど今年が 120 周年というようなことで、なぜ魯迅が東北大だったのかというのも、そこは私ちょっとカバーしきれてないんですけれども、いろいろな理由があったように聞いております。ありがとうございます。
私から、皆さんからまだご指摘がなかった、かぶらないようなところで、14ページが「デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用」というところ、発信力を高めるといったところをもう少し充実した書きぶりにしていただくと良いのかなと思いました。
15ページ、先ほど田村委員から、どのように公表していくのかというところで、データブックなどのことも、ここに書けるのではないかということだったわけです。「4. 推進体制」の前に、デジタルをはじめとしたさまざまな技術を使って発信力を高めて、必要な方に必要な、いろいろなサービス等々の情報が届くようにするというような、何かそういったことも含まれると良いの

かなと、せっかく良い取り組みをたくさん行っているのに、誰もそれに気が付かないで使われないサービスばっかりということになっては最も本末転倒かなというふうに思いました。
もう1点は非常に細かい点なんですけれども、6ページの一番下に東北大のことを書いていただいていて、「東北大学の国際卓越研究大学認定（見込み）」なんですが、これが出ていくときには「見込み」が取れていると思いますので。間もなくこの秋に、お披露目させていただきたいと思っておりますけれども。だからどの時点まで「（見込み）」にするのかはお任せいたしますが、最終版では取れているようにお願いいたします。
私の気付いたところは以上なのですが、残り時間も少し短くなってまいりましたけれども、他に言い足りなかったことなど、いかがでしょうか。2回目、3回目のご発言でも構いませんけれども。
本図委員お願いします。

〇本図委員
英語学校も実は新島襄を呼んで、早くからも明治に作りましたので。財政難から保ちませんでしたけれども、それまでここに盛り込めるかどうかは別ですが、私たちの先達ということで、そういうことがございました。

〇大隅委員長
そういうことがあったのですね。私も知りませんでした。ありがとうございます。ちょっと調べてみたいと思います。
他にいかがでしょうか。よろしいですか。
そうしましたら、本当に事務局と言いますか仙台市側から適宜のいろいろなご説明があったところではございますけれども、少し最後まとめる形で、筒井局長の方からいかがでしょうか。よろしくお願いします。

〇筒井まちづくり政策局ダイバーシティ推進担当局長
本当にたくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。特に「世界」のところですとか、1ページ目のところは、もう一度考えてみたいと思います。
今日皆様からいただいたご意見で、私もそうだなと思ったことに、やはり書き方1つで我々の意志を示すというところがあって、石井副委員長からも、語尾を少し変えるだけでも大分雰囲気が違うんじゃないかというお話もありましたので、いただいたご意見を参考にさせていただいて、あちこち手を入れていきたいなというふうに思っております。
取り組み例の扱いについてもいろいろなアイデアをいただきましてありがとうございました。市役所の指針だとしても、そのことを市民の方たちにわかっていただいて波及させていかなくてはなりません。この指針をしっかり公表して我々の取り組みを見せていくということが必要だということを改めて思っておりますので、ちょっと出し方を考えさせていただきたいと思います。
それと、ここは申し訳ないというところで、何度も繰り返し、今後、何をするのかというところをもう少し書き込むべきというご意見をいただきました。この指針が出るタイミングというのがありまして、やはり我々予算というのを、議会でご審議をいただいて方向性を決めていかなきゃいけないというところがありますので、先ほど課長からもご説明させていただきましたが、来年度の予算の出し方の中で、しっかりとこの指針を受けてどういうことをしていくのかというのを、議会からもご議論いただいた上で、きちんとまとめてこの指針の策定と一緒に出していきたいと思っておりますし、そこに入れる事業についてはやはりどこを目指すのかという目標値を付けて出していきたいと思っております。分かれて出ていくというふうにご理解いただけるとありがたいなと思います。
今また頭が溢れそうになっているんですけれども、これをもう一度明日から咀嚼し直して、中身を少し検討させていただきまして、また最後に皆さんにお送りして、時間がない中で見てください、というようなことになるかと思いますけれども、中間案が出る前の本当に最後ぎりぎりのと

こに来ておりますので、どうかそこにつきましてはご協力をいただきまして、これを外に出していけたらなというふうに思っています。
本当に今日はありがとうございました。

〇大隅委員長
筒井局長ありがとうございました。
このダイバーシティ推進会議では、皆さんがどんどん意見を言っていただけるので、本当に委員長としてはありがたい限りです。私にとっても、毎回出るたびに学びがあると言いますか、やはりいろいろなことを、こんな視点もある、あんな視点もあるというようなことを学ばせていただくような大変貴重な機会にもなっているということを本日改めて思った次第です。
今後の予定について事務局の方からご説明いただくことになりますけれども、また次回も、皆様におかれましてはぜひご協力いただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
では、事務局の方にバトンタッチしたいと思いますのでよろしくお願いします。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
1点、11月に開催予定のダイバーシティ関連イベントについて、皆様に資料をお配りしておりましたので、そちらをご覧いただければと思います。
仙台市と東北大学さんとで連携いたしまして、11月15日から17日の3日間にかけて、ダイバーシティの関連イベントを開催いたします。今回は時間の関係上、イベントの詳細までの説明は割愛させていただきますけれども、ダイバーシティまちづくりを推進する取り組みの一環として開催したいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。
また、イベントの詳細につきましては配布している資料をご覧いただければと思います。ぜひお時間の許す限り皆様にもお越しいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇大隅委員長
私から一言だけ、11月15日と17日のどちらにもご登壇いただくロンダ・シービンガー先生のことをお話させていただきたいと思います。
カタカナが多くて恐縮なのですけれども、「ジェンダード・イノベーション」という非常に新しい概念がございまして、ジェンダーに配慮する、性差があるということを前提に、それをむしろマイナスをプラスに変える的なことの一環だというふうにお考えいただけたらいいかなと思います。
この「ジェンダード・イノベーション」を提唱された方というのが、この仙台市のチラシをご覧いただけたらと思いますけれども、現在スタンフォード大学に所属されているロンダ・シービンガー先生です。もともとは科学史などの歴史の研究者なんですが、いろいろな研究をされており、御著書もたくさんあるんですけれども、こういったジェンダーに配慮するということが、むしろ新しいいろいろなイノベーションに繋がっていくということを提唱されるようになりまして、現在そういったこともたくさんの活動をされていて、昨年はお茶の水女子大学さんがお呼びになって東京でだけ数日過ごされたのですが、今回は東北大学と、その後東大の方にも行かれるんですけれども、せっかくの機会ですので仙台市の方もぜひご協力いただけたらということでお声掛けさせていただきました。15日はこのワークショップという形で、何か新しい開発などをするときに、ジェンダーの視点を忘れていませんか、男性も女性も同じというふうに考えていると、どちらかの性にとって非常に不都合なことが起こり得ますよ、皆さんそういったことに気を付けながら新しいものを作っていけると良いですね、というような、そういったことを学ぶ機会のワークショップになればということで、15日の方はそういう設定になっています。
17日の方は、東北大学が毎年行っている DEI 推進シンポジウムなんですけれども、ロンダ・シービンガー先生には基調講演をいただいて、そのあとのパネル討論で、ファシリテーターの鶴田先生という大阪大学の先生は、シービンガー先生の著書の翻訳などもされている方なのです

が、東北大学からは、北川先生という工学部の先生ですけれども、北川先生はスタートアップのファイトケミカルプロダクツ株式会社というところの CTO もされている方です。それから、仙台市経済局の白川さんにもご協力いただくということで、スタートアップに関して、こういった「ジェンダード・イノベーション」の観点を入れられないかというようなことについてのご意見を伺いたいと思っています。それから、こちらにいらっしゃる小宮委員にもご登壇いただくということでお願いしております。先日のお話もありましたけれども、百貨店の全体の職員の方々の中では女性の方が圧倒的に多いというところがあるかもしれませんが、また逆の立場からのご示唆、お話なども伺えるかなということを期待しております。
最後ですけれども、株式会社 LITALICO というところは発達障害の方々の就労支援などを行っている会社でして、こちらも一種のスタートアップなんですけれども、もう10年以上やってらっしゃいますが、こちらの研究所の所長というお立場の榎本さんという方にご登壇いただけることになりました。
ですので、ジェンダードというのは少し男女の部分になりますけれども、シービンガー先生はもう少し広くダイバーシティをとらえてらっしゃいますので、パネル討論の方ではさらに多様な皆様にご登壇いただいて、より良い社会、世界になっていくようにというお話ができたらというふうに思っております。17日は日曜日ですけれども、オンラインと対面のハイブリッドですので、ご参加いただけるようなことがあればよろしくお願いいたします。

〇大沼ダイバーシティ推進課長
ありがとうございます。
1点、仙台市が実施する11月16日の「仙台ダイバーシティフェスタ2024」ですけれども、こちら、企画運営の受託者を公募いたしまして、ヘラルボニーさんが採択されております。ヘラルボニーさんと一緒に、今回の視点1から4で言うと特に視点3に関わるところを意識しながらイベントを開催したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
最後に、今後のスケジュールについてご説明いたします。
本日いただいたご意見をもとに中間案を取りまとめまして、後日皆様にお送りしたいと思います。その後、議会への報告の上、10月下旬頃よりパブリックコメントを実施したいと考えております。
次回の第4回推進会議は12月26日を予定しておりまして、その際には、パブリックコメント等のご意見を踏まえた最終案素案としてお示ししたいと思います。
最終案素案につきましては、12月中旬頃までにはお示しできるよう準備を進めてまいります。
事務局からは以上でございます。

〇大隅委員長
今までのご説明等々で、何かご不明な点はありますか。よろしいでしょうか。
では、マイクを事務局の方に戻させていただきたいと思います。山口係長お願いします。

〇山口企画推進係長
皆様、長時間にわたりご議論ありがとうございました。
以上をもちまして、第3回仙台市ダイバーシティ推進会議を閉会させていただきます。
大変お疲れ様でございました。

※委員より会議の議題に関する意見があったことから、以下のとおり議事録に掲載する。

〇及川委員
「世界を見据えて」の表現については未来につながる良い言葉だと思いますが、世界の何を見据えているのかがわかりにくいと感じました。世界標準を見据えて、世界のトップを見据えてなのかによっても意味が変わってくると思います。Greenest に込められた思いからひもとく

と、心地よさ、挑戦、成長というコンセプトを汲んで「世界の進化を見据えて」ということもあるかと思います。「世界」という言葉にいろんな意味がこめられているので、そこをひもとかないほうが視野が広まるというのであれば合意します。
視点1の「ちがい」に配慮ある制度・サービスをつくる、そして、視点2のなくてはならない「ちがい」を守るという視点2に特に共感いたしました。ただ、両視点にジェンダーの記載がなかったのが残念です。日本において、特に地方都市においてジェンダー役割の固定化、バイアスの多さはまだまだ課題だと感じています。①不利益をなくすという項目に「バイアスの削除・ジェンダー・障害・外国人・性自認」という具体的な項目をいれてみてはいかがでしょうか。特にこれまでの取り組み例にジェンダーの事例が少ないのが気になっています。もし実施しているのなら取り組み例を加える、もしくは本文中にジェンダーを含むあらゆるバイアスの撤廃に向けたアクションということを入れてみてもいいのではないでしょうか。あるいは、視点4で記載されている②無意識の思い込みへの気づきや固定観念の払拭の項目を最初の視点1に持ってくることでも「覚悟」が見えるのではないでしょうか。この無意識の思い込みの表現はとても共感します。
特にこの点においては、制度政策をつくる市職員のジェンダーバランス、及び職員のジェンダーバイアスの撤廃が重要になります。仙台市がバランスの整備、バイアスの撤廃を積極的に市職員から進めているという点は他都市にとっても大いに先駆事例になるのではないでしょうか。もし実施しているとしたら PR にもなりますし、実施していないとすればこれから実施するだけでも意味のあることになると思います。
視点3の「ちがい」から生まれる価値観や視点をまちの力に変えるが、今回の Greenest、世界を見据えの肝になるところだと感じました。例えば、②で記載されている「対話交流の場をつくる」のところを「対話交流の場を作り、個人や組織（団体）の成長につなげる」のような言葉にしてもいいのではないかと考えました。成長、発展をイメージできる言葉を入れてみても良いのではないかと考えました。